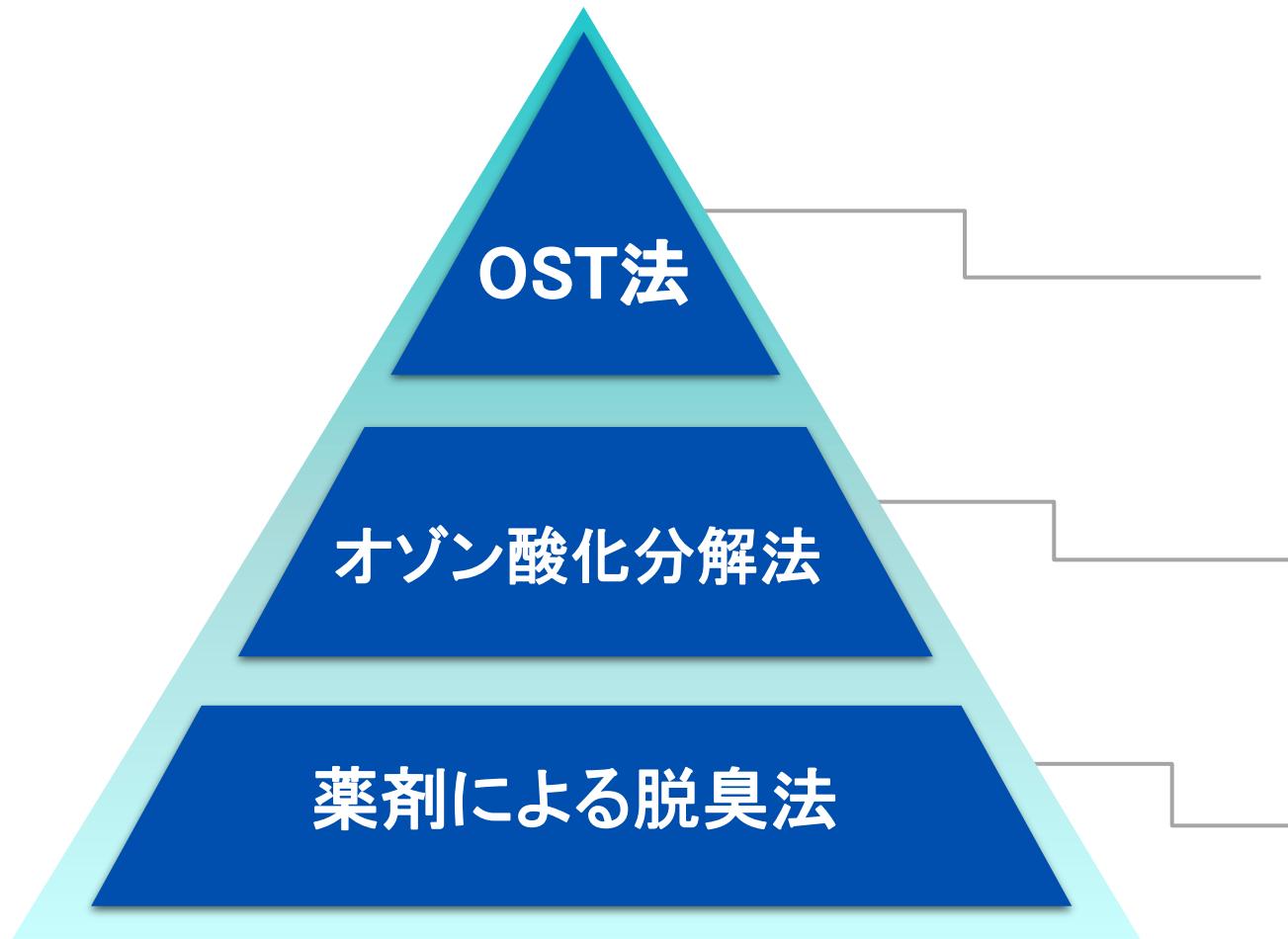


OST(オゾンショックトリートメント)法による

オゾン脱臭

ハウスクリーニング ナミキ

日本オゾン協会 オゾン安全管理士
日本除菌脱臭サービス協会会員



今回ご紹介する方式

現在ある脱臭機械の最高峰

一般的な「オゾン脱臭」

低スペックな脱臭機械

一般的な「脱臭」

OST(オゾンショックトリートメント)法とは？

OST(オゾンショックトリートメント)法は

多様な臭気、臭度の強い臭気を短時間で強力に脱臭することを可能にする脱臭方法です。

一般的なオゾン脱臭方法である

オゾン酸化分解法の中でも最高技術の脱臭法となっています。

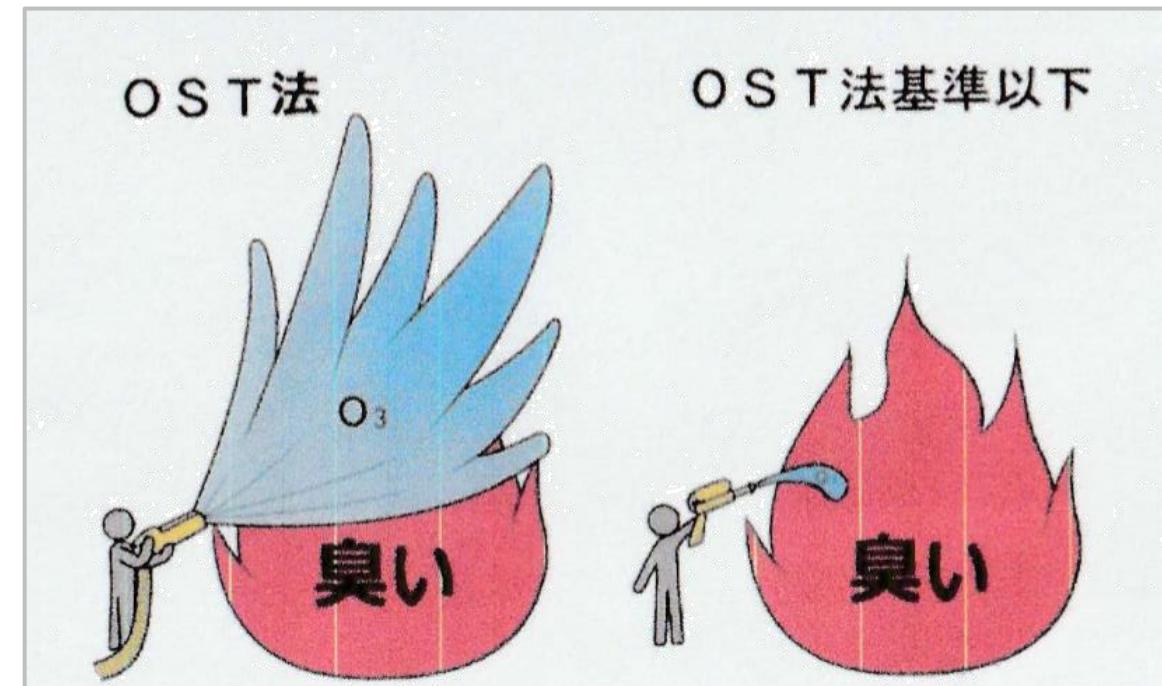
災害復旧(火災、ボヤ、水害の後)、特殊清掃(孤独死、ごみ屋敷)といった事故的な重篤な臭気の現場からタバコ臭、カビ臭、ペット臭といった日常的な臭気の現場まで広く対応可能です。



OST法の原理・仕組み

オゾン(O₃)を室内にたくさん発生させ、かつ循環させます。

これは、オゾン発生装置の風量が大きければ大きいほど、分子活動が活発化する率が高まるという化学反応の法則に則って、吹き出させるオゾン量を増やし、臭気物質と結びつける回数を増やすことで、反応率を高める手法となります。



OST法の条件

OST法は、以下の条件をクリアする環境で行う脱臭方法です。

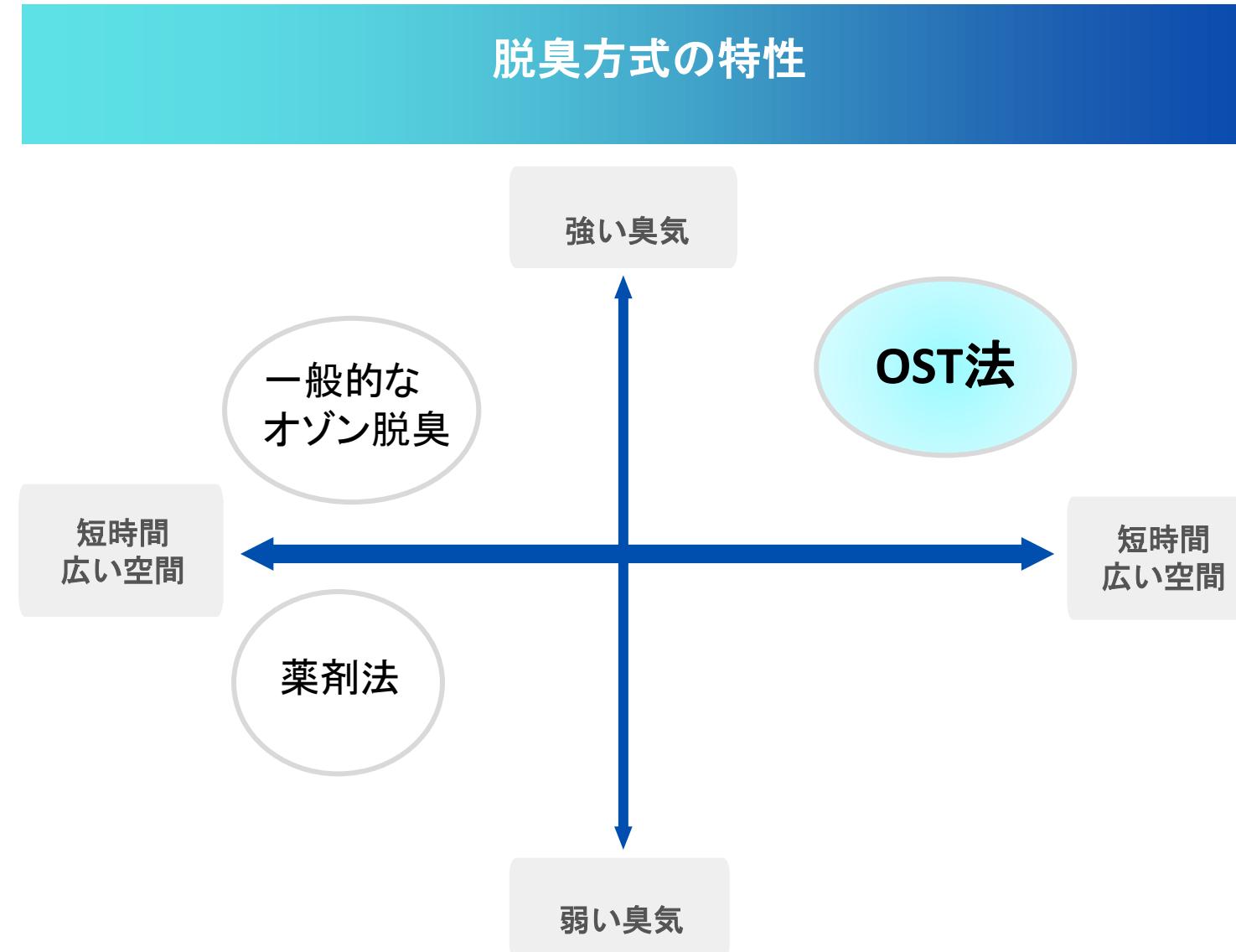
①空気を原料にして大容量のオゾンを大風量で生成する

・オゾン発生量:7500mg/h以上 ・ファン風量:260m³/h以上

②専用の薬剤を併用する

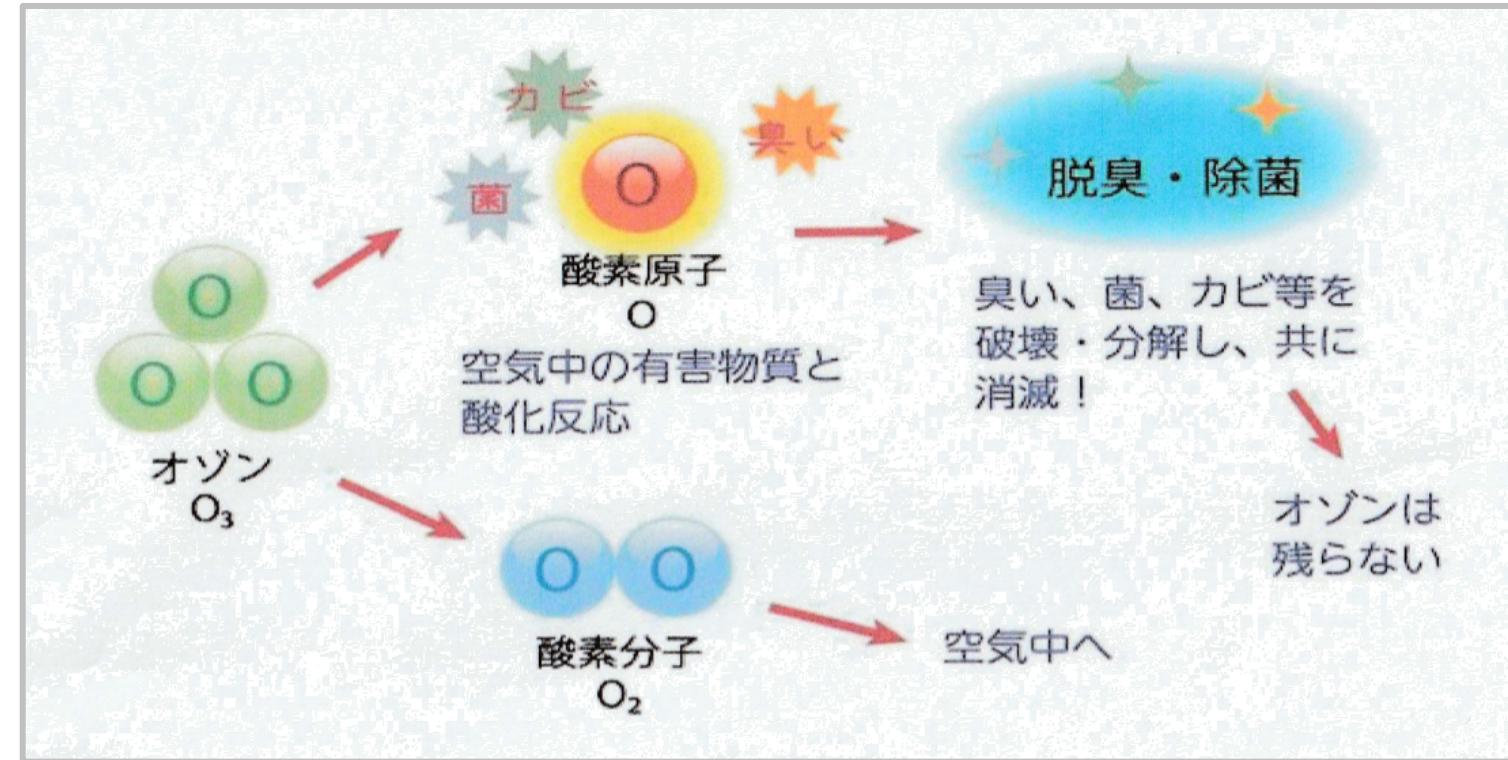
③時間が経過してもオゾン生成量が低下しない

④高温多湿でもオゾン生成量が低下しない



臭気の種類や強さ、部屋の広さ等の制約が格段に減り、従来は不可能だったシーンでの脱臭も可能に！

オゾン脱臭の原理・仕組み



オゾン(O_3)は不安定な状態であるため、酸素原子(O)と酸素分子(O_2)に分解されます。放出された酸素原子(O)は空気中の有害物質と結合して酸化反応を起こします。悪臭物質や有害な細菌と反応することで、脱臭効果や除菌など効果を発揮。オゾンは分解されて残留性が無いため、環境にやさしく安全です。

オゾンの効果、特性

オゾン(O3)は 優れた消臭力・除菌力・漂白力を持ち、安全で環境にやさしい物質。

✓ 強力な酸化力

フッ素に次いで2番目に強い酸化力がある

✓ 除菌・ウイルス除去

コロナウイルスの不活性化

✓ 臭気物質・菌などと反応して分解する(反応分解)

においの元から脱臭可能

✓ 害虫忌避効果

ゴキブリ、ダニ、ネズミはオゾンのにおいを嫌う

✓ 防カビ効果

カビの繁殖を予防する

✓ 花粉の不活性化

花粉の膜壁を破壊し不活性化

✓ 温度、湿度、反応物の量に比例して反応速度が高まる

✓ 浸透しない

特性上物質の内部に浸透することがない

✓ 残留性が無い

薬剤を使用していない

✓ 時間の経過とともに分解する(自然分解)

✓ 身の回りで利用されている

上下水道、プール、食品加工、製紙工場、製薬会社、農水産業

✓ 高濃度オゾンは有害

濃度×曝露時間による

オゾンと臭気物質の反応

においの種別

吐しや物臭

カビ臭

タバコ臭

糞便臭

汗・体臭・加齢臭

尿臭

ペット臭

死臭

腐敗臭

お香

葉巻

香水・アロマオイル

ペンキ

有機溶剤

灯油

オゾンと反応しやすい



オゾンと反応しづらい

物質別

アンモニア/硫化水素/メルカ
プタン/アミン類

インドール類/アルデヒド類

低級脂肪酸

ノネナール

芳香族炭化水素

OST法によるオゾン脱臭 使用薬剤

OST法によるオゾン脱臭の作业には、以下の薬剤を使用しています。



噴霧型消臭剤



消臭洗浄剤



消臭補助剤

オゾン脱臭の作業イメージ



OST法によるオゾン脱臭まとめ

- 「オゾン脱臭」は「薬剤による脱臭」よりも強力であり、「OST法によるオゾン脱臭」は、一般的なオゾン脱臭である「オゾン酸化分解法」の中でも最高技術の脱臭法である。
- オゾンが臭気の原因物質を分解するため、においの元から脱臭が可能である。
- オゾンには除菌効果があり、コロナウイルス等を不活性化することができる。
- オゾン脱臭の作業時は部屋のドアを目張りし、オゾンが部屋の外へ漏れ出ないよう徹底する。さらに、オゾンは分解されて残留しないため、OST法によるオゾン脱臭は安全な作業である。

ハウスクリーニング・脱臭のことなら

ハウスクリーニングナミキ

お問い合わせ先



代表

並木 亮嗣



電話番号

090-9677-0861



FAX

042-563-8318